

輸出事業計画

※申請者名：今吉製茶(有)、品目：仕上茶（抹茶）

1. 輸出における現状と課題

【背景】

霧島市は中山間地に位置しながら令和に入ってから毎年栽培面積が増加しており、全国でも有数の有機栽培茶産地となっている。特に碾茶を中心に輸出向けの荒茶の引き合いが強い産地である。

【現状】

- ・当社は有機 J A S 認証を取得し、碾茶・煎茶の製造を行い、既に荒茶（碾茶・煎茶）において輸出に向けた取り組みを開始している。
- ・主な輸出品目を碾茶とし、世界的な需要の高まりを受け、年々生産量が増加している。
- ・今回、取引先より自社製造した碾茶を用いた輸出向け抹茶の製造についても要望があり、今回の輸出向け抹茶の取組に至った。

【課題】

「生産」の課題

- ・有機 J A S 認証（同等性）による輸出を軸としており、近隣圃場からの農薬飛散等についてのリスク管理が課題。
- ・生産基盤の拡大・ロットの確保に伴い、生産現場では就労者の確保が課題。

「製造」の課題

碾茶の加工処理能力が不足している。

「加工」の課題

自社製造碾茶を加工し仕上茶（抹茶）として出荷する事業の早期開始を求められている。

「販売」の課題と取組内容

エンドユーザーのニーズの把握と、その解決のための技術が不足している。

2. 輸出事業計画の取組内容

「生産」の取組

- ・当社では既に各種 G A P 認証を取得しており、リスクマネジメントについての体制は構築されている。今後は従業員や雇用者の入れ替わりに際し、常にその体制が維持できるよう経営者としてリスク管理していく。
- ・国内のみならず海外においても人材確保を行う。

「製造」の取組

- ・生葉管理工程・仕上工程の増設、機能強化を行うことによって、処理能力の確保を図る。

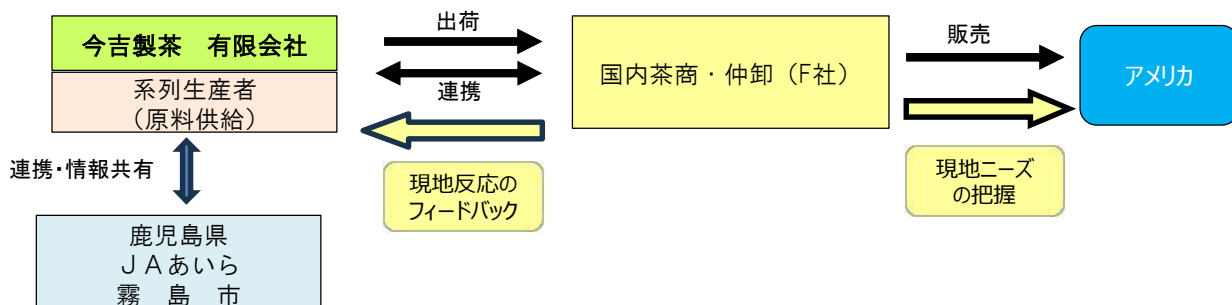
「加工」の取組

- ・仕上茶加工施設を新設し、仕上茶加工ラインを整備する。

「販売」の取組

- ・加工機（ミル等）を整備し、取引先を通してエンドユーザーからのフィードバックを得るとともに、マーケティング調査・テスト輸出等を実施する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

抹茶	現状 (令和6年)	目標年 (令和10年)
輸出額(千円)	—	67,900
輸出量 (kg)	—	19,400
輸出先国	—	米国